

# ガーデニングに挑戦(1)

研究開発本部 不破 規智

北国では、冬が過ぎると早春から初夏にかけて野山の花が美しく咲き誇ります。一方、ガーデニングで使われる花の多くは寒冷地を原産とする植物から品種改良されてきたもので、北海道はガーデニングの適地なのです。

ただし、北海道の春～初夏には気温が急に下がることがありますので、この時期に植える花は特に寒さに強い種類を選ばなくてはなりません。

一般的な一年草の、苗を植える適期(札幌近郊の例)

雪解け～4月中	ゴールデンウィーク～5月中旬	5月下旬以降
パンジー・ビオラ アリッサム デージー	ペチュニア カリブラコア マリーゴールド アゲラタム バーベナ	インパチェンス サルビア ケイトウ コリウス ベゴニア

## <春一番に植えたいパンジーとビオラ>



近年のパンジーとビオラの品種には明確な区別がなく、一般に花の大きなものがパンジー、小さなものがビオラと呼ばれています。パンジーとビオラは寒さに強い植物ですので、雪がとけてクロッカスが咲く頃には庭やプランターへ植えることができます。北海道で



は4月に雪が積ることがあるので心配になるかもしれませんが、大丈夫です。

### (地植える場合)

雪がとけたら、庭のいちばん日当たりのよい場所へ植えます。土へ完熟堆肥または腐葉土と肥料を混ぜ、深さ約20cm程度耕します。気温の低い時期は、地植えではパンジーよりもビオラの方がよく咲くようです。

気温が上がるにつれて株はどんどん大きくなりますが、まだ寒い早春にはゆっくり育ちます。はじめは株間10cm程度で近付けて植え、大きくなったら間引くようにして半分を別の場所へ移動するとよいでしょう。

### (プランターや鉢植えの場合)

日当たりのよい場所へ置き、「すくすく倶楽部」など市販の培養土で植えます。プランターや鉢に日光が当たると土の温度が上がるため、庭植えよりもよく育ちます。この植え方には花が大きく草丈も高いパンジーの方が向いているようです。



### (手入れをして初夏まで楽しむ)

ビオラもパンジーも、受粉して結実してしまうとあまり生長しなくなります。ですから咲き終わった花をこまめに摘み取ることが長くきれいに咲かせるコツなのですが、庭植えではそこまで手を掛けることは難しいと思います。

一方、近年は店頭で、ラベルの付いたパンジー・ビオラの苗をよく見かけます。値段が高めなので庭植えするには勇気が要りますが、大きな鉢やプランターへ植えてみるとその良さがよく分ります。ボリュームが出るので大きな鉢に植えて玄関先へ置くとよく目立ちますから、ひと手間かけて手入れする価値はありそうです。

## <春のうちから宿根草(多年草)を育てる>

宿根草の多くは、播種や苗を植えた当年には花を咲かせませんが、来年のために育てておきましょう。初夏にぐんぐん育つものが多いので、苗を手に入れたらゴールデンウィーク～6月中旬に植えるのが上手に育てるコツです。

宿根草の中で、北海道の広い庭にお勧めしたいのがクリスマスローズとクレマチスモンタナです。

## <クリスマスローズを育てる>

店頭でよく見かける鉢植えのクリスマスローズ(ヘレボラス)には大きく分けて2種類があり、それはニゲル系とガーデンハイブリッド(オリエンタリス)系です。いずれも寒さに強く北海道で栽培するのに適した多年生の植物ですが、庭植えには特にガーデンハイブリッド系がおすすめです。



### (鉢物や苗は、根詰りしているのに注意する)

クリスマスローズは花の咲いている鉢物も苗も、店頭にあるものはほぼすべてが根詰まりしています。ですから、入手したらできるだけ早く植えるのがよいでしょう。

雪がとけて土が乾いてきたら、北海道ではいつでも地植えすることができます。植える場所は半日陰がいちばんよいですが、乾燥しすぎなければ日当たりのよい場所でも問題ありません。

庭に、植物の入っている鉢やポットの縦横およそ2倍の大きさの穴を掘り、完熟堆肥または腐葉土を穴の半分程度まで入れ、緩効性肥料も加えて庭土とよく混ぜてから植え込みます。その後はほとんど手がからず、何年も楽しむことができます。

## <クレマチスモンタナを育てる>

近ごろの北海道では5月下旬～6月中旬になると、見事に咲いているクレマチスモンタナを見かけるよう



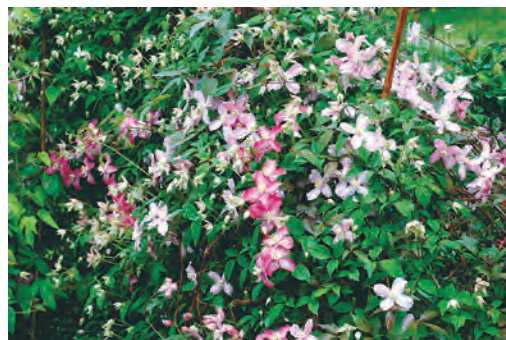
になりました。北海道の気候によく合う植物なのですが、まだ広くは知られていないようで残念です。

## <クレマチスモンタナの苗の植え時は、北海道では5～6月>

クレマチスモンタナの苗や鉢物は北海道では4月下旬から店頭並び、写真付きのラベルが添付されています。植える苗は4～5号鉢以上の大きめのものを選ぶと、来年には花を見ることができます。

植え時は5～6月で、6月からツルが勢いよく伸びはじめます。ツルは秋までに数メートル伸び、このツルに来年の花が咲きますので、支柱やフェンスに絡ませて育てます。

地植えする際は、大きめの穴(苗が入っている鉢・ポットの2倍を目安に)を掘って完熟堆肥または腐葉土、緩効性肥料を入れます。



## <複数の品種を植えると、花を長く楽しめる>

ひとくちに「クレマチスモンタナ」と言ってもいくつもの品種があり、ホワイト、ピンク(淡い～濃い)、八重咲きもあります。これらは少しずつ開花期が異なるので、50cm以上離して異なる品種を植え、ツルが互いに絡み合うように育てると長く花を楽しむことができます。始めに濃いピンクが咲き、続いて淡いピンク、最後はホワイトなどと、互いに混ざり合いながら変化して行く初夏のクレマチスのフェンスは素敵なものです。

## <クレマチスモンタナは前年伸びたツルに花が咲く>

今年伸びたツルに来年の春の花が咲きますので、このツルをよく成長させ、咲かせたい場所へ誘引します。

ツルが伸びている間は肥料を吸収しますので、2年目以降はこの成長期に追肥します。また、成長が停止する秋には肥料を控え、冬に備えます。

冬も、ツルはそのままにします。ツルを下ろして雪の下にすると雪の重みなどで枯れてしまうことが多いです。

## <おわりに>

今回は、北海道のガーデニングに向く一年草と宿根草(多年草)の一部を紹介しました。まずは玄関の近くなど、よく目にとまる場所から少しずつ、お気に入りの植物を育ててみてはいかがでしょうか。